

札幌市議会議員

むらまつ叶啓

やすひろ

政務調査
だより
北区

あなたの声を、
つなぐ、叶える。

複雑化した課題にしっかり対応

ごあいさつ

日頃より私の活動に対しましてご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年12月に秋元克広市長に重点政策の申し入れを行い、物価高騰や人手不足に対する支援強化、脱炭素化の推進に加え、雪対策の強化、救急医療体制の整備、観光業の振興、教育環境の充実など、市政課題の解決に向けた取り組み強化を要望しました。3期目の任期もまもなく折り返し時期を迎えますが、地域の皆さまの声を着実に市政に反映させ、誰もが安心して暮らせる「人にやさしいまちづくり」を全力で進めてまいります。

引き続きご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

札幌市議会議員 **村松 叶啓**



委員 長村松叶啓
第一部決算特別委員会の委員長を務める



秋元克広市長に重点政策を申し入れる

イベントや飲食ブースにより地域を活性化

「百合が原公園」新施設が9月開業へ

札幌市は再整備計画が進められている百合が原公園について、民間のアイデアを活用する「公募設置管理制度(パークPFI)」の導入を決め、昨年12月、市内の企業・団体6者によるコンソーシアムと協定を締結しました。これにより、花をテーマにした新たな公園施設「Li. Li. Li(リ・リ・リ)」が今年9月に開業予定です。

新施設は公園南西部の空きスペースに整備され、平屋建てで延べ床面積は120平方メートル。飲食施設と物販施設からなり、花をテーマにしたお祭りやファッションショー、結婚式など、さまざまなイベントへの活用が期待されています。私、むらまつ叶啓も、まちの新たな魅力づくりにより地域活性化が図られるようしっかり後押ししてまいります。

主な事業内容

- ◆花や雪をテーマにした大型イベントを企画
- ◆どんぐり、丸美珈琲店、アイビック食品がプロデュースするパン、コーヒー、ジェラートの専門店
- ◆親子のためのプレーパーク、地域の子ども居場所づくり
- ◆子どもや若者、女性などが体験・挑戦できる実践ラボ



「YURIGAHARA PARK FUTURE LAB」資料より



芸術文化支援、まちづくりについて調査 財政市民委員会で道外視察

昨年7月、財政市民委員会による行政視察のため、中部地方を訪問しました。

初めに訪れた長野県では、全国で設立が相次いでいる「アーツカウンシル」に関する先進的な取り組みについて調査しました。また、松本市では市立博物館の施設概要や開館に至るまでの経緯について、富山市では安全で安心なまちづくりや防犯設備の設置について調査を行いました。得られた知見を市政課題の解決に役立ててまいります。



村松叶啓のプロフィール 昭和50年、札幌市北区生まれ。篠路小学校、上篠路中学校、北海高校卒業。東京工科専門学校卒業後、建設会社で15年間、公共施設や住宅の建築に携わる。平成27年に初当選。現在3期目。市議会総務委員長、文教委員長、経済観光委員長などを歴任。現在、財政市民委員、総合交通政策調査特別委員。趣味／愛犬との散歩、釣り

札幌市議会議員
むらまつ叶啓政務調査室

〒002-8022 札幌市北区篠路2条7丁目5-22
TEL: (011) 774-6913 FAX: (011) 788-3920
E-mail: info@m-muramatsu.com



経済成長により豊かさを実感できる 札幌の実現へ

私たち札幌市議会自由民主党議員会は25人が所属する最大会派として、物価高騰対策や人手不足への対応をはじめ、防災、子育て・教育、医療・介護、交通インフラ整備などの課題に総力を結集して取り組んできました。令和6年12月には中央省庁や国会議員に対する要望活動を実施し、必要な予算の確保を強く訴えました。さらに、令和6年6月に国が決定した「GX金融・資産運用特区」制度を最大限に活用し、国内外から人・モノ・情報呼び込み、人口減少局面を迎えながらも経済成長を続ける活力あるまちづくりを進めていく考えです。



12月13日、市議団が東京を訪れ、中央省庁や道内選出国会議員に要望活動を実施

安全・快適な冬の生活へ雪対策を強化

自由民主党議員会では、安全で快適な冬の生活に欠かせない雪対策の強化を最重要課題の一つに位置付け、札幌市などに対策のさらなる強化を求めてきました。

市の令和6年度除排雪事業予算額は、人件費や燃料費の高騰などを踏まえて総額278億円となりました。大雪が降った場合の排雪作業の前倒し、バス路線の排雪の強化、今後、懸念される担い手不足に備えた1人乗り機械の導入、融雪施設の整備などを引き続き進めてまいります。

また、昨年度、市民生活への影響が大きかったザクザク路面への対応について、今冬は、路面の雪を削る「路面整正作業」を天気予報に基づきザクザクになる前に行い、暖気が来た際の影響を軽減するといった対策も実施します。



負担の在り方に配慮した敬老パスの存続

人口規模で全国5番目の大都市となった札幌市も、高齢化が進む中で人口減少局面に入りました。市では、今後の持続可能な社会に向けて市民の健康寿命延伸に向けた取り組みが極めて重要との考えから、様々な取り組みを進めています。

一方で、50年続く敬老パス制度を、健康ポイント事業に全面的に移行しようとしていた市の当初素案に対しては、自由民主党議員会として、皆さまからの様々な意見を踏まえ、健康寿命延伸の課題と敬老パスの課題を分けて整理するよう主張してきました。

このたび、市は当初素案を修正し、高齢世代と現役世代、双方の負担に配慮して、制度の見直しを行ったうえで敬老パスを存続させる実施案をまとめました。今後も幅広い世代の理解を得ながら、誰もが長く健康に安心して暮らせる未来を築いてまいります。

子ども医療費助成で子育て世帯を応援

自由民主党議員会では、子育て世帯の経済的負担を軽減するための子ども医療費助成の対象拡大に取り組んできました。その結果、市では医療費助成の対象を令和6年4月から中学3年生まで、さらに令和7年4月から高校3年生まで拡大することとなりました。子ども医療費助成を受給する方は、初診時に一部負担金(医科580円、歯科510円)のみの負担で医療機関を受診することができます。

なお、令和7年4月からの拡大に当たり、高校1、2年生世代のお子さん(就学していない場合を含む)が新たに助成を受けるためには、申請が必要です。

令和6年4月から

中学3年生までの
通院・入院

対象拡大

令和7年4月から

高校3年生までの
通院・入院

詳細はこちら



物価高克服に向けた支援を拡充

物価・エネルギー価格の高騰が市民生活や経済活動に大きな影響を及ぼしています。政府が令和6年11月に閣議決定した「総合経済対策」には、物価高対策による直接的な国民負担の軽減策として3.8兆円規模の財政支出が盛り込まれました。

これまで自由民主党議員会では、政府与党に市民生活への負担軽減や支援メニューの拡充を強く要望してきました。引き続き、物価高の影響を受ける方々へ支援を速やかにお届けできるよう取り組んでまいります。

低所得世帯支援

- 住民税非課税世帯には、一世帯当たり**3万円**を目安に給付
- 子育て世帯には、子ども一人当たり**2万円**を加算して給付

エネルギー価格に対する措置

- 電気料金 低圧契約 **▲2.5円**/kWh 高圧契約 **▲1.3円**/kWh
- 都市ガス **▲10円**/m³

※電気使用量の大きい1~3月に支援、電気・ガス合計で月1300円の値引き(電気の使用量は2人以上世帯の全国平均電力購入数量(400kwh)を、ガスの使用量は一般家庭の都市ガスの平均使用量(30m³)を想定)

